# 薪割り機26t(DL23H)

# 取扱説明書

Dream Link

**薪割り機26t のご購入ありがとうございます。はじめに以下の点をご確認ください。**
**ご注意）梱包箱と本体には27t の表記がありますがこれは重荷重についての単位の違いによるもので、日本では26t の破砕力となります。**

**注意**

**本製品を正しくお使いいただくために、使用前に必ず本取扱説明書をお読みください。**

安全上の注意を怠ると重大な傷害または死亡事故につながる可能性があります。

エンジンオイルは、充填されない状態で出荷されます。

・エンジンを始動する前に、SAE10W-30 エンジンオイルを充填してください。
・エンジンオイルの容量については、エンジンに関する説明をご覧ください。

油圧オイルタンクには、油圧オイル（作動油）は充填してありません。

・油圧オイル（作動油）の量は、機器仕様、または【作動油の注入についての注意事項】をご覧ください。

**薪割り機の各部、各部品の点検をしてください。**

・部品が破損している場合は、コールセンター迄、ご連絡をお願いします。コールセンター：0120-070-285

# 安全上のご注意　必ずお守りください

| | |
|---|---|
| ! | これは安全警告のシンボルです。人身事故の危険性を警告するために使用されます。傷害または死亡事故を防ぐために、この記号の後に続くすべての安全メッセージに従ってください。 |
| ! 危険 | 危険マークは、回避しなければ、死亡または重大事故になる差し迫った危険を示します。 |
| ! 警告 | 警告マークは、回避しなければ、死亡または重大事故につながる潜在的な危険を示します。 |
| ! 注意 | 注意マークは、回避しなければ、軽度または中程度の傷害を招く恐れのある潜在的な危険を示します。 |
| 注意 | 安全警告シンボルのない注意マークは、回避しなければ、物損事故の潜在的な危険を示します。 |

! 警告

## 圧砕事故防止のために

可動部のウェッジは手や腕を挟み、切断・骨折など重大な事故を招くことがあります。片手を丸太に添える、または身体を可動部のウェッジ（刃）及びビームスライド（刃の可動部）に近づけることは絶対にしないでください。ウェッジに衣服が引き込まれる、薪がはじけて飛ぶ、または、足の上に落とすなど重大な事故を招きます。

・コントロール（制御）バルブを操作しているときは、他の人が作業スペースに立ち入ることは絶対に避けてください。

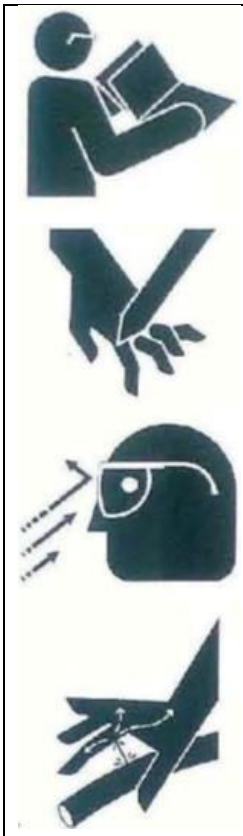
・ルーズな服装（特に、ボタン掛けなしの袖口、同じく衣服など）で作業を行わないでください。衣服が薪割り機の可動部に絡まって、体が引き込まれることがあります。

・暗い場所での作業は危険なので、薪割り機の使用は昼間時に行うか、投光器などで充分な明るさを確保してください。

# 目次

守っていただきたい重要な安全ルール……5
機械各部の名称と役割…… 7
機器仕様書……8
組立方法……9
オイルホース取り付けの注意点……14
操作手順……15
エンジンの始動方法…… 17
薪割りの豆知識（快適に薪割り作業を行うために）……19
メンテナンスと保管……21
エンジン始動前の点検……23
定期的なメンテナンス手順……24
エンジンメンテナンスについて……26
作動油の補充と交換……28
トラブルシューティング……29
保証書……32

# ⚠ 守っていただきたい重要な安全ルール



## ⚠ 警告

1.）組立作業は、この取扱説明書をお読みいただいてから！

安全上の注意を怠ると重大な傷害または死亡事故につながる可能性があります。薪割り機を操作する方は、安全ルール、操作手順及びメンテナンス作業について、先ず理解をしてください。

2.） 圧砕災害から身を守る

ウェッジが四肢に突き刺さり、骨折等の重大事故を招くことがあります。両手はウェッジとエンドプレートから離してください。

・ 他の人が作業区域内に入ると、重大な事故が起こることがあります。薪割り機の操作中は、他の人が作業区域に入らないようにしてください。

・ルーズな服装で作業を行わないでください。服が薪割り機の可動部に絡まってしまうことがあります。

・ 暗い場所での作業は危険ですので、薪割り機の使用は必ず昼間または、照明にて充分な明るさを確保してください。

3.）飛散物を避ける

作業中に木材の破片が飛び散る可能性がありますので、目のケガを防止するため、必ず保護メガネを装着してください。

4.）身体への影響を防ぐ

ウェッジが身体を挟み、四肢などの切断を含む深刻な傷害を引き起こす危険性があります。

・ 圧力をかける前にすべての器機具がしっかりと固定されていることを確認してください。点検・修理をする場合は、エンジンを停止させ、ウェッジをスタート位置に戻し、油圧システムの圧力を開放させてください。

・作動油の漏れの点検をする場合は、素手で行わず、手袋着用でウエスなどの布切れなどで拭い、点検作業を行ってください。

・ 身体への傷害が発生した場合は、直ちに病院にて処置を受けてください。

## ⚠ 警告

5.） 火災や爆発の危険性から身を守る

・エンジンからの排気ガスは火災の原因になることがあります。ガソリンは引火性、可燃性が高いので、燃料を取り扱う際はエンジン部（特にマフラー）からの排熱、余熱に充分をお気をつけください。

・ 可燃物は、マフラーの排気口から少なくとも 2 メートルの距離を空けてください。

・ 燃料を追加するときは、必ずエンジンを停止し、ボイラー、ストーブ、タバコなどの熱源や火元、電気機器の回路などの接点からの火花や炎などから遠ざけてください。エンジンが稼働しているときや熱いうちに燃料を追加しないでください。エンジンの近くでは禁煙です。

・ 静電気により燃料に引火する恐れがあるため、ガソリンスタンドに持ち込んでの燃料補給はしないでください。エンジンに燃料を入れるためには、消防法適合の燃料保存容器を使用してください。燃料漏れがあった場合は、直ちに拭き取ってください。本薪割り機に合致する燃料は、ガソリンエンジン用レギュラーガソリンのみです。灯油、ディーゼル用軽油は使用できません。

・ ガソリンの保管は、火元のない安全な場所でお願いします。

・エンジンの改造は、絶対にしないでください。

・ 使用前には必ずエンジンから漏れがないか点検してください。の原因となります。エンジン始動前に燃料漏れを点検・修理してください。

・ 薪割り機を輸送する際、機械が転倒して燃料漏れを起こさないようにしてください。

6.） 使用場所

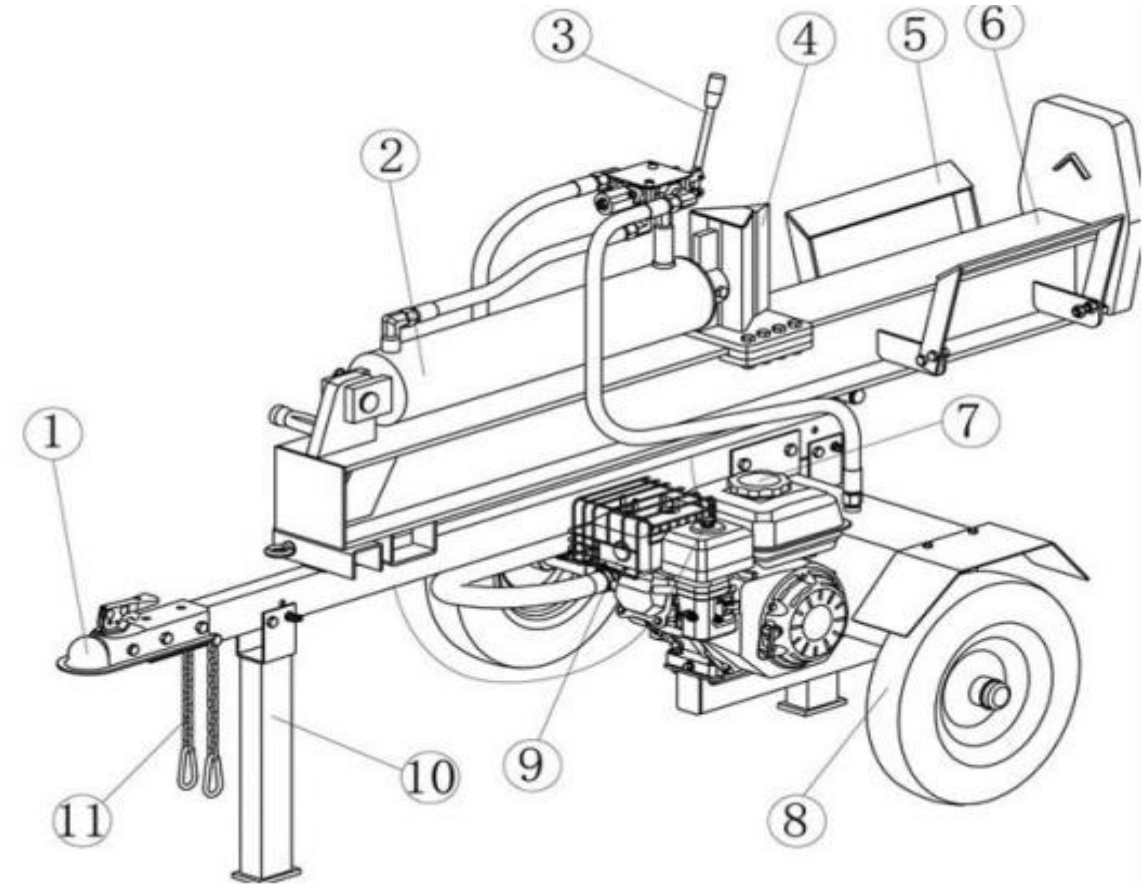
・薪割り機は排ガスの影響のない屋外にて使用してださい。

## ⚠ 注意

7.）薪割り機のマフラーは熱くなるので、触らないでください。
マフラーに触れると火傷の恐れがあります。

この説明書は大切に保管してください。

# 機械各部の名称と役割




① 横フレームとヒッチカプラー　→全体ユニットを支持するフレーム
② 油圧シリンダー　→油圧ピストンを押し出す力を発生
③ 油圧コントロールハンドル　→油圧オイルの流れを制御するハンドル
④ ウェッジ（刃部分）　→薪を破砕する刃
⑤ ログ（丸太）ガイド及びガード　→薪が落ちないように支持
⑥ 本体支柱（台座）　→薪をセットする台座
⑦ エンジン部　→油圧発生の動力源
⑧ 移動用車輪　→本体移動時に使用する車輪
⑨ ギアポンプユニット（奥）　→油圧を発生させるポンプ
⑩ サポート脚　→薪割り機を支える支持脚（前後有）
⑪ 安全チェーン　→けん引中のカプラーの外れ止め

# 機器仕様書

【エンジン仕様】
ROBIN エンジン仕様：4ストローク　OHC エンジン　211CC　7馬力
LONCIN エンジン仕様：4ストローク　OHV エンジン　196CC 6.5 馬力

●ガソリンタンク容量：（ROBIN：3.2L/LONCIN:3.6L）
●エンジンオイル容量：0.6L（4 サイクルエンジン用）SAE 10w-30
点火プラグ種類：（ROBIN:NGK BR6HS/LONCIN：NGK BPR7ES）

薪割り可能な最大長：60cm
薪割り可能な最大径：約40cm（広葉樹）、約 45cm（針葉樹）
※樫、欅、桑、栗などの広葉樹の堅い木材は、割れにくいときがあります。
また、軟木でも、節があるときや生木のときは割れないことがあります。

ラム圧（油圧シリンダー発生圧力）：26 トン
ギアポンプ排出油量：約 16L/毎分
最大圧力：約255Kg／㎠
油圧シリンダーサイズ：（ボア x ストローク）：11．4㎝× 60 ㎝
サイクルタイム：16秒

油圧オイル（作動油）種類：
VG32、または VG46 番をご使用ください。
●必要作動油量：24L

牽引対応：2 インチボールヒッチ、外れ止め（安全）チェーンあり
本体サイズ：長さ 225cm×幅 110cm×高さ 125cm（横置きのとき）
本体重量：195㎏

**次は組立です。**

**組立の前に！！**
**本薪割り機は重量物のため、油圧シリンダー取り付け時に、2 人以上の人手、またはホイストなどの吊り下げ機器があると、安全に組付けが可能です。**

# 組み立て方法

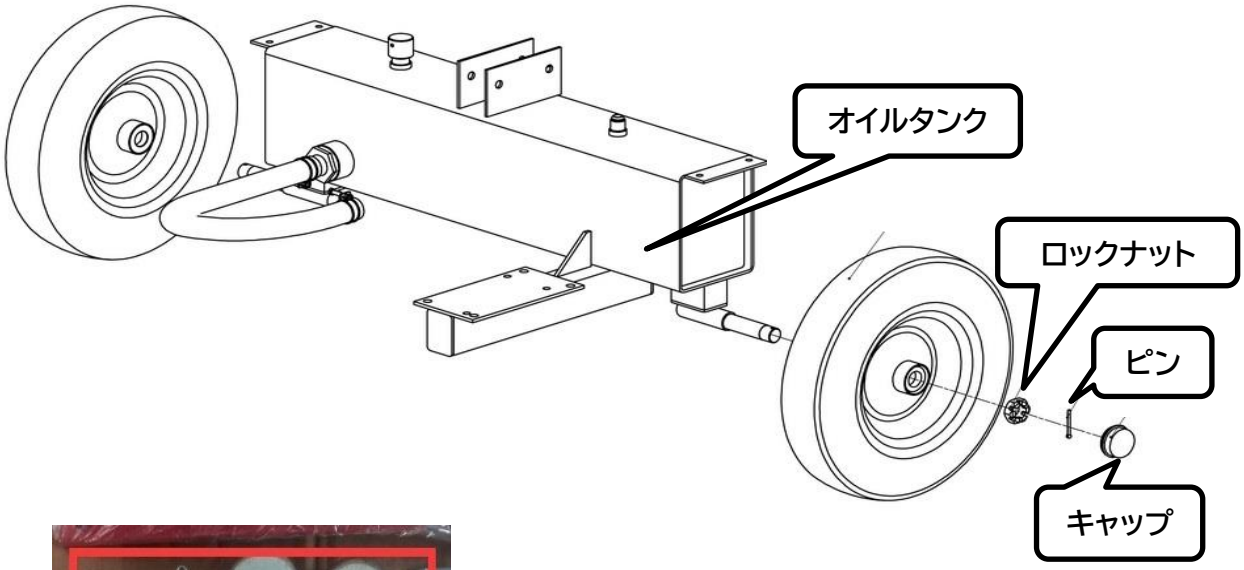
**ご注意）すべての組立ネジ（ボルト・ナット・ワッシャー）は取り付け部にプリセット（仮留め）してあります。**

## ステップ1:同梱物の確認

開梱し、同梱物を取り出し、エンジン、オイルタンク、車輪、横フレーム、サポート脚機器類などについて損傷がないか、組み立て前の点検・確認を行います。

## ステップ2: 車輪を取り付ける

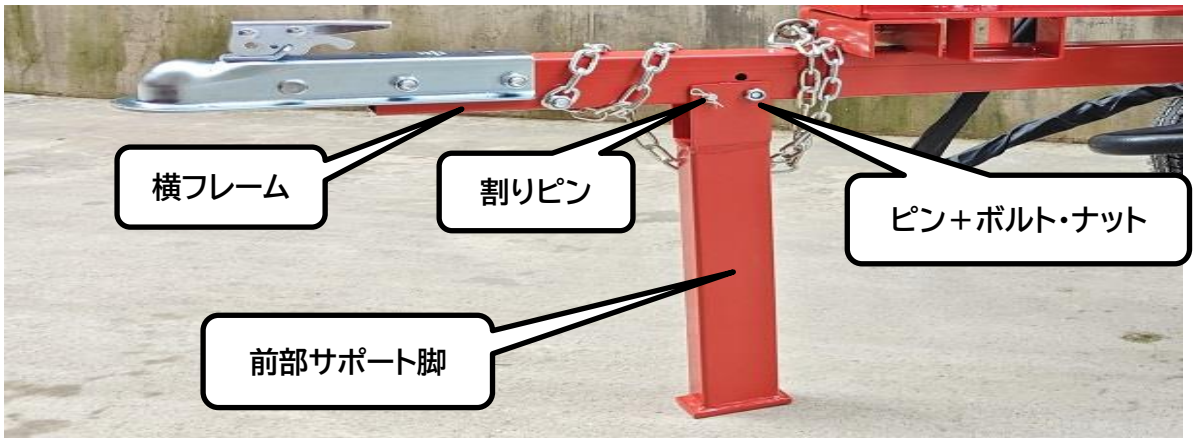
オイルタンクのシャフトに車輪を装着して、ロックナットをねじ込みシャフトとロックナットをピンで貫通させ、ピンの先端を折り曲げます。その後、キャップを木槌、またはゴムハンマーで軽く叩きキャップを被せます。（タイヤの空気栓は手前に来るようにします）



←キャップ、ロックナット、ピン

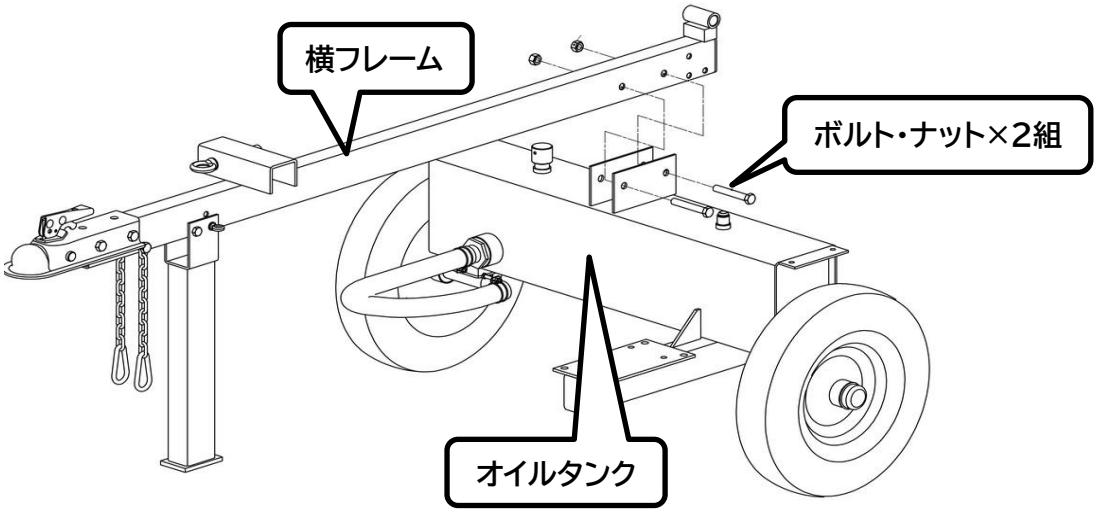
## ステップ3：横フレームに前部サポート脚を取り付ける

横フレームを支える前部サポート脚を取り付けます。右側（中心部）の穴にはボルト・ナットで、左側の穴にはロック用のピンと外れ止めの割りピンを貫通させます。（➜次ページ）



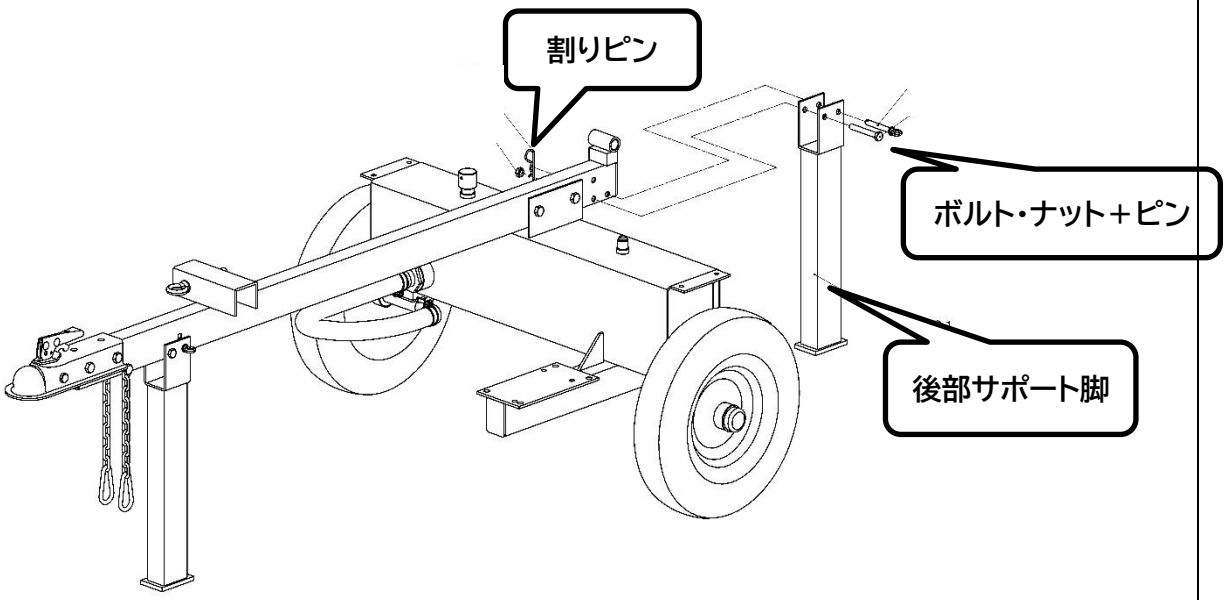

## ステップ4:横フレームとオイルタンクを合体させる。

各2本のボルトとナットで両部位を固定します。



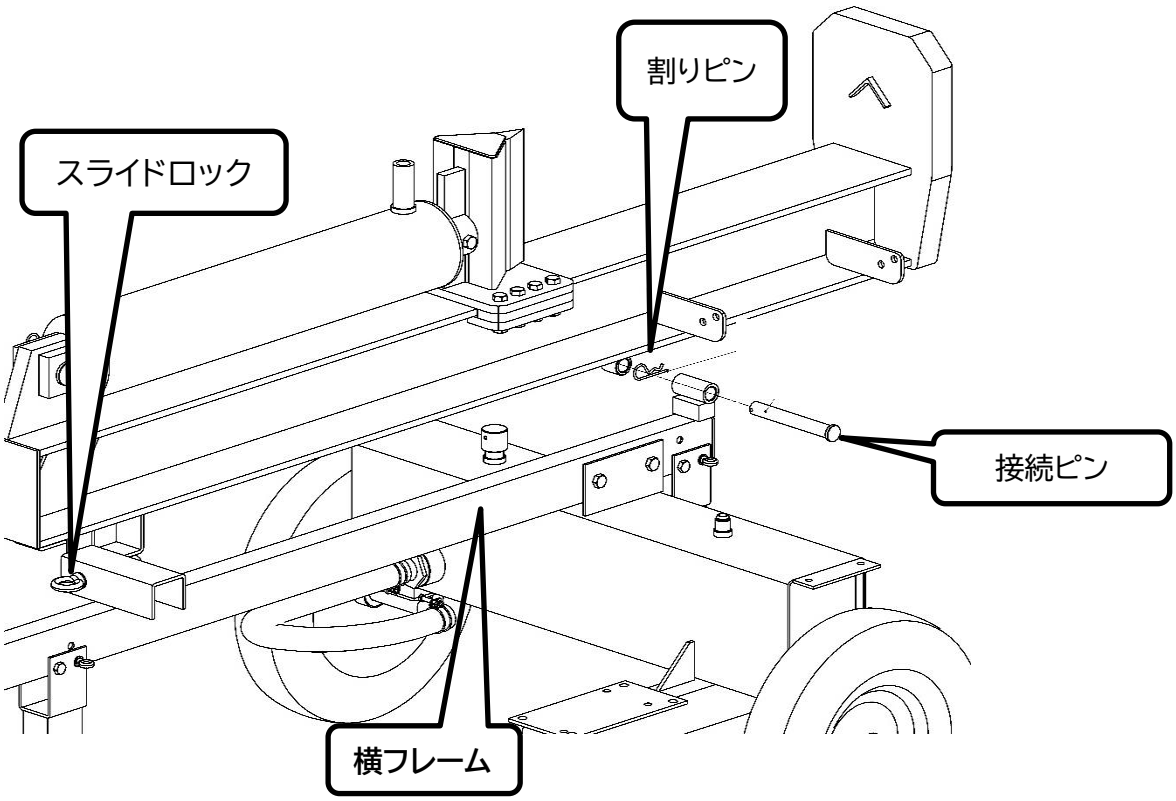

## ステップ5: 後部のサポート脚を取付ける。

後部のサポート脚を取付けます。横フレームを支える後部サポート脚を取り付けます。左側（中心側）の穴にはボルト・ナットで、外側の穴にはロック用のピンと外れ止めの割りピンを貫通させます。



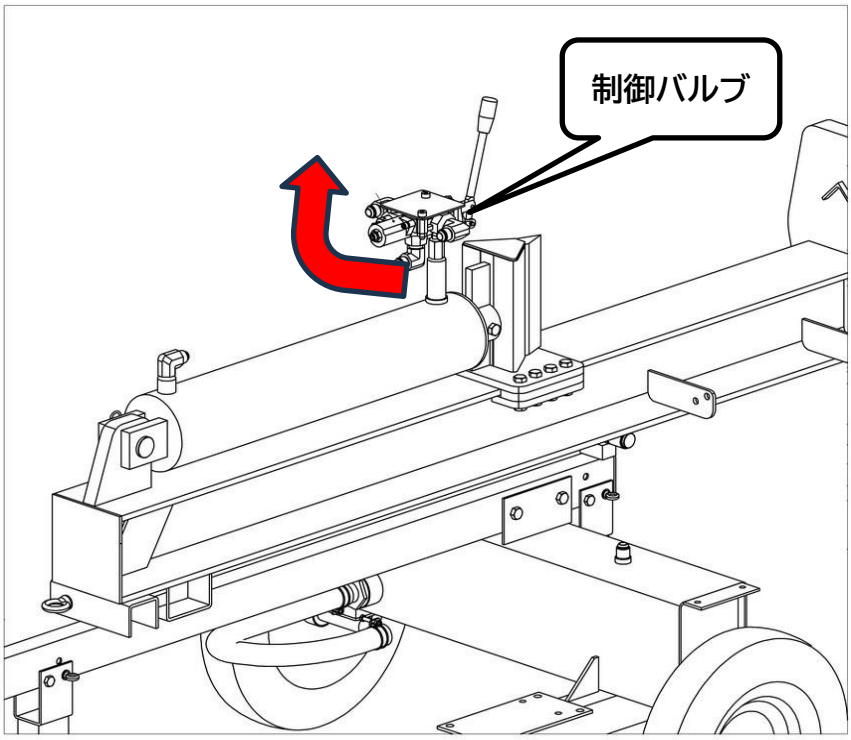
## ステップ6:横フレームに本体支柱(台座)を取り付ける。

油圧シリンダーが乗った本体支柱(台座)のシャフトと横フレームのシャフトの位置を合わせ、太い接続ピンを通し、割りピンを入れ固定します。 ※縦割りと横割りを切り替える、スライドロックは、予め横フレームに接続済です。**重量があるので、複数名で接続をお願いします。**



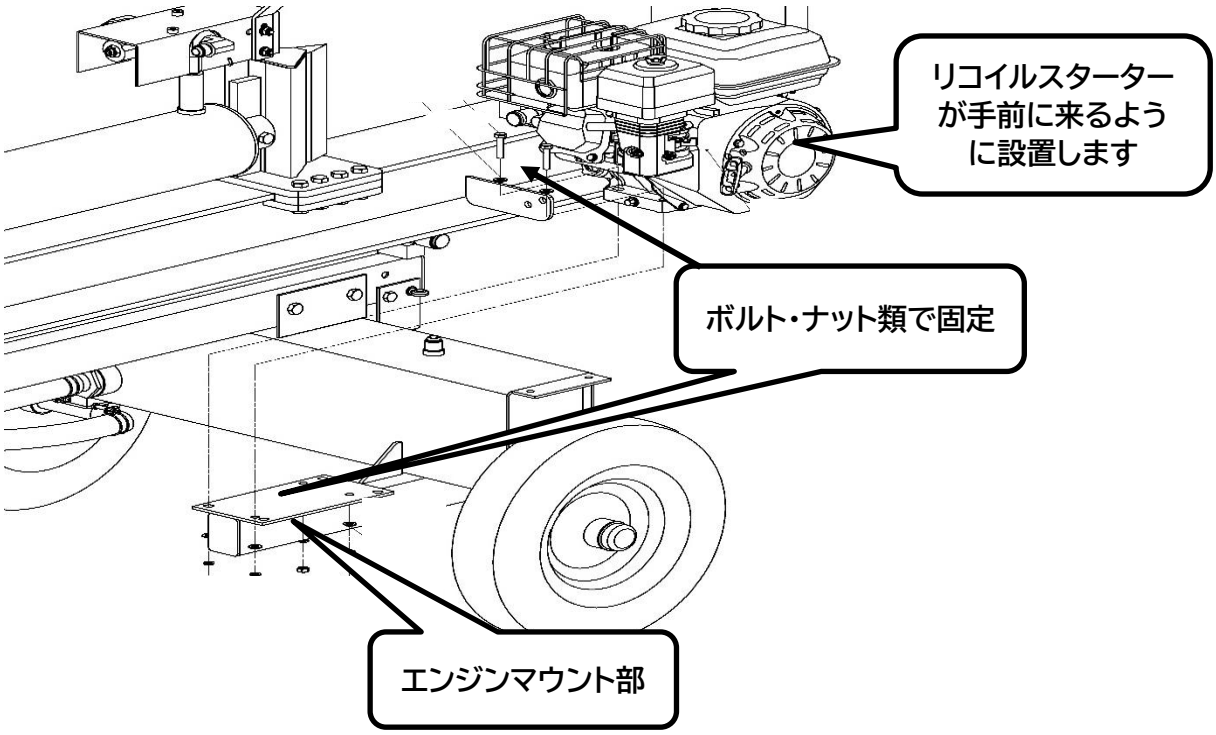

## ステップ7:制御バルブユニットを油圧シリンダーに取り付ける。

シールテープを使用して右回しで、回転が固くなるまで締め付けます。



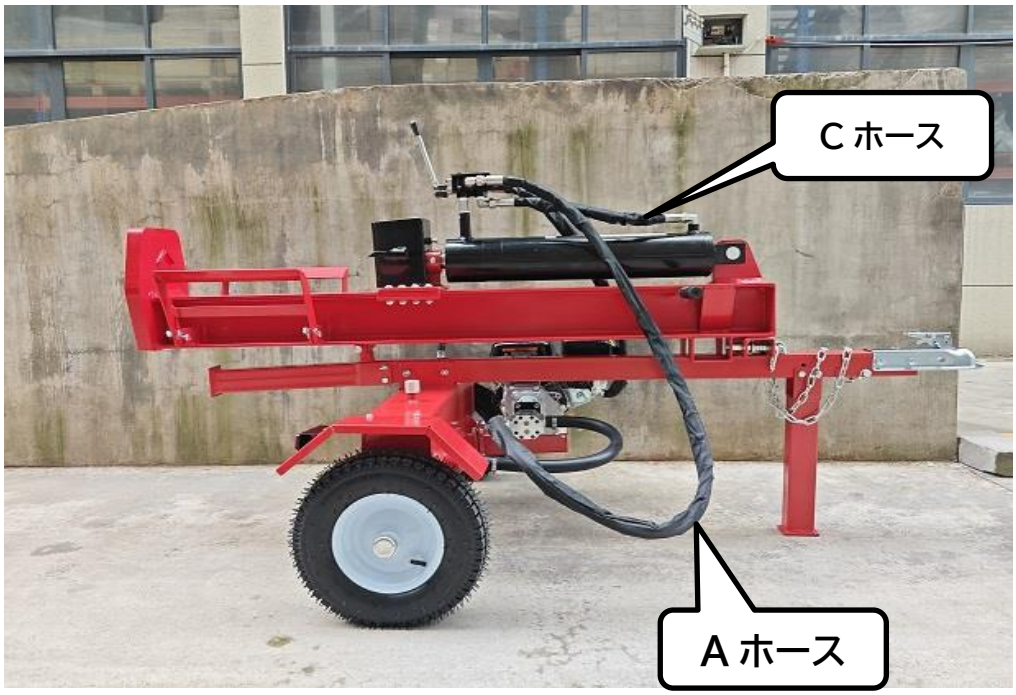
## ステップ8：エンジンを取り付ける

エンジンマウントにエンジンを取り付けます。
上から、4組のボルト・ワッシャー・マウントフレーム・ワッシャー・ナットの順で取り付けます。リコイルスターター（エンジン始動グリップ）が手前に来るように設置します。振動を防ぐため、しっかり固定します。




## ステップ9：油圧ホースを取り付けます。

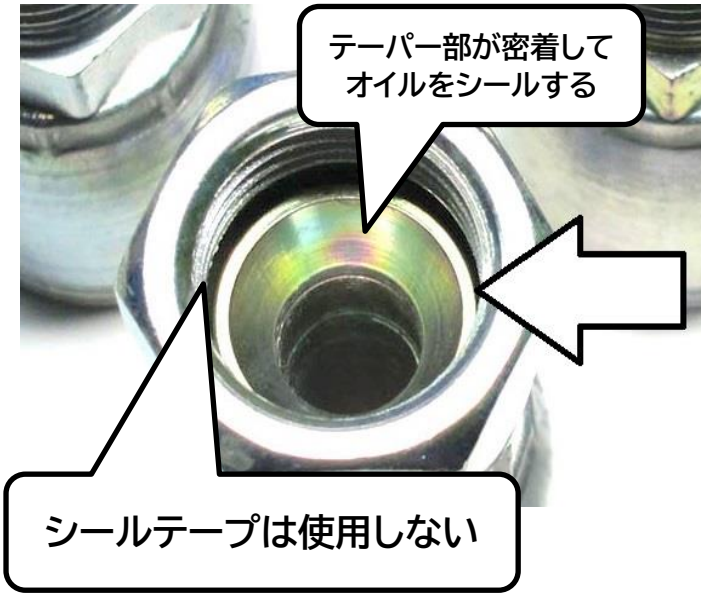
油圧ホースを合計4本取り付けます。
（1）油圧シリンダーに短いCホースを制御バルブの真ん中と油圧シリンダー取り付けます。（➜次ページ図）
**AホースとBホースには誤装着を防ぐため、A、Bのラベルが貼付済です**
（2）Aホース：制御バルブとギアポンプ（油圧ポンプ）に接続
（3）Bホース：制御バルブとオイルタンク上面に接続
（1）、（2）、（3）はジャンクション（コネクター部）に、モンキー等でしっかり固定します。
（4）サクション（吸引）ホース：ギアポンプ側面とオイルタンク側面に接続し、ホースバンドで固定します。（➜次ページ図）
シールテープは使用した方が漏れの可能性が低くなります。



※AホースとBホースは左右に分かれ、互いに交差することはありません。
　AホースとBホースはネジピッチが異なるため、互換性はありません。

## オイルホースの取り付けの注意点

オイルホースA、B、Cの接続には、シールテープを使用しないでください。制御バルブ(ねじ込み部)①とサクション(吸引)ホース②【下図↓】は、シールテープを使用してもOKです。



## ステップ10:車輪フェンダーとログ(丸太)ガイドを取り付ける

車輪フェンダーとログ(丸太)ガイドを取り付けます。ボルト・ナットを使用してそれぞれ固定します。最後に、制御ハンドルを所定の位置に設置します。

## 【作動油注入についての注意事項】

・作動油がこぼれないように、ホースの連結部分やその他の連結部分は、モンキーレンチなどの工具でしっかりと締めてください。

・薪割り機には、お届け時は、作動油は入っておりません。購入した作動油24L を注入してください。(作動油の注入口は右記写真のマークの箇所となります)

・作動油を注入した際に空気が混入するケースがよくあります。
その場合は、エンジンを始動させ、制御バルブのハンドルを操作し、油圧シリンダーを数回動かし、作動油を循環させることにより、エアーは自然と抜けます。

**※こちらの給油ポートには、エンジンオイルを注入しないでください。絶対に間違えないようにお願いします。作動油の種類は、巻末の資料をご参照ください。**

## ⚠ 操作手順

薪割り機の正しい操作手順は以下の通りです。

1.)丸太をビームに乗せ、エンドプレート側に当てます。
ビームは、水平、垂直の方向での薪割りが可能です。
いずれも最長:60㎝以内の丸太を置くことができます。

2.)他の人がウェッジの可動域内に入ると、重大な事故が起こることがあります。
コントロール(制御)バルブのハンドルを操作しているときは、他の人を作業スペース内に入れないでください。

3.)丸太を割るときは、コントロール(制御)バルブのハンドルを両手で(台座/丸太側)に押してください。途中で止めることもできます。➡図1をご参照

4.)ウェッジを元の位置に戻すためには、コントロールバルブのハンドルを両手で(シリンダー側)に引き戻してください。

5.)ビーム上から割れた木材を取り除きます。

6.)ウェッジの動きが遅いときは、油量を増やすために調整ナット(➜図2)を締めます。固定用ナットを緩め、手前のボルトを締め、ナットで固定します。

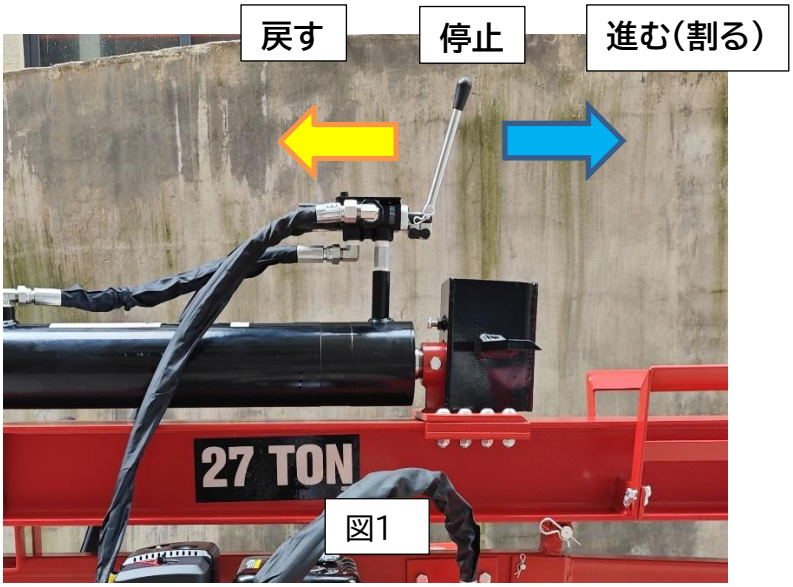


図1

ウェッジの動きが弱いときは油量調節ネジを締めます

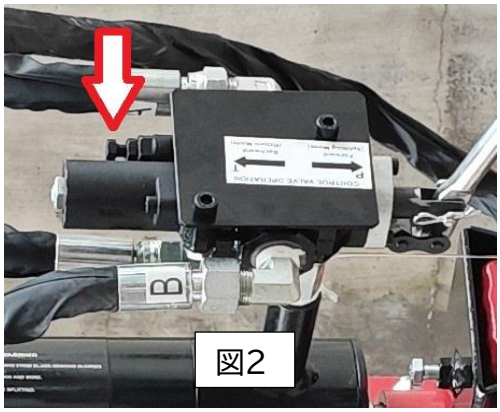


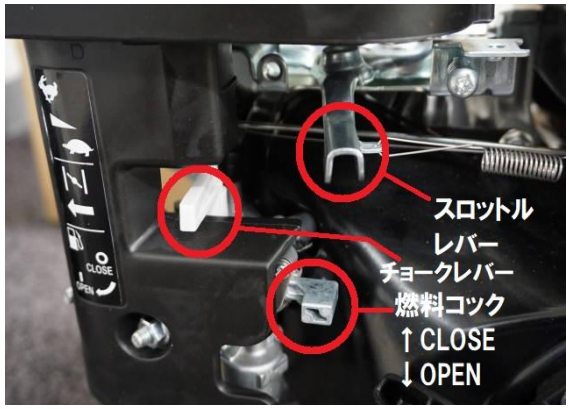
図2

## 水平と垂直の切り替えができます。

本薪割り機では水平方向に展開する「横割り」と垂直方向に展開する「縦割り」の2方式を選択できます。

本体支柱（台座）と横フレームを固定しているスライドロックを引き、上下を切り離し、台座＋油圧シリンダーを垂直に立ち上げます。

# エンジンの始動方法

| | エンジン始動のステップ | |
|---|---|---|
| 1 | 白色(または黄色)のキャップを外し、エンジンオイルを0. 6L 入れてください。<br>(封入口は2か所、いずれも OK です)<br><br>エンジンオイルは4サイクル用で、農耕作業車(耕運機)用、エンジン発動機用、一般自動車用のものを使用します。 | |
| 2 | 黒いキャップを外し、ガソリンを入れてください。<br>(満タンはロビンエンジン3.2L、ロンシンエンジン:3. 6Lです) | |
| 3 | 始動時は、赤いエンジンスイッチを ON にします。停止するときは、OFF にします。 | |
| 4-1 | **ロビンエンジンのとき**<br>スロットルレバーの開度を、50%から最大にします。※エンジンの始動後にアクセル開度を調整してください。ウサギマークがフルスロットル側で、亀マークがスロットル最小絞り状態です。<br>・燃料コックを OPEN にします。<br>・チョークを一時的に閉めます。<br>始動後に解除します。<br>(始動性をアップさせるためです) |  |
| 4-2 | **ロンシンエンジンのとき**<br>・スロットルレバーを50%から最大にセットします。<br>・燃料コックを「開」にします。<br>・チョークを一時的に閉めます。<br>始動時に解除します。<br>(始動性をアップさせます)<br>**※両エンジンともスロットル開度は70%～全開でご使用ください。開度が低いと、作業中、エンジンが停止することがあります。** | |

| | | |
|---|---|---|
| 5 | 「リコイルスターター」を引くことでエンジンが始動します。一度、スターターをいっぱいに引き、一旦戻して、引っ掛かりのあるところで、勢いよく引きます。<br>※エンジンが始動したら、チョークレバーを元に戻します。<br>◎作業が終了し、エンジンを停止するときは、赤いスイッチを OFF にします。 | |

⚠下記のことにご注意ください。
◆エンジンが冷えた状態では、チョークレバーを絞ってエンジンをかけるとかかりやすくなります。
（ガソリンと空気の混合気を濃くします。）

| | |
|---|---|
| | ⚠警告 |
| | 圧砕事故防止のために<br>可動部のウェッジは手や腕を挟み、切断・骨折など重大な事故を招くことがあります。片手を丸太に添える、または身体を可動部のウェッジ及び 本体支柱（台座）に近づけることは絶対にしないでください。ウェッジに衣服が引っ掛かり巻き込まれる、薪がはじけて飛ぶ、または、足の上に落とすなど重大な事故を招きます。<br>・コントロールハンドルを操作しているときは、他の人が作業スペースに立ち入ることは絶対に避けてください。<br>・ルーズな服装（特に、ボタン掛けなしの袖口、同じく衣服など）で作業を行わないでください。衣服が薪割り機の可動部に絡まって、体が引き込まれることがあります。<br>・暗い場所での作業は危険なので、薪割り機の使用は昼間時に行うか、投光器などで充分な明るさを確保してください。<br>・薪が割れないときは、一旦、制御ハンドルを戻し、薪の角度を変えるなどしてください。ハンドルを強く押し続けると油圧回路に高負荷がかかり破損したり、ブレードやエンドプレートが変形することがあるのでご注意ください。 |

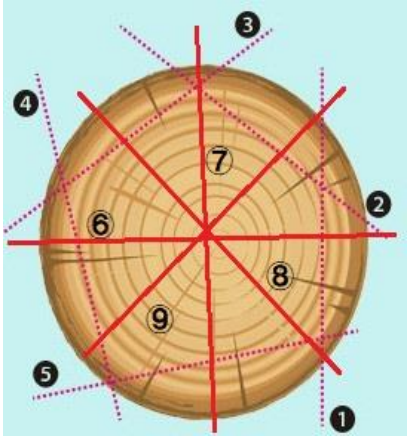
# 薪割りの豆知識（快適に薪割り作業を行うために）

☑本薪割り機26tの薪割りが可能な木材の直径は以下の通りです。
※下記の薪の適合直径は乾燥させた薪で、生木や節目があるものは、適合直径はさらに小さくなります。但し、すべての種類が、乾燥させた方が割りやすいとは限りません。木材専門業者や薪ストーブ販売会社などにお問い合わせください。

**本薪割り機の適合直径**

広葉樹：直径40cmくらいまで
針葉樹：直径45cmくらいまで

☑太い薪を割るときは、以下の図のようにそぎ割りして直径を細くして分割すると薪割り機の負担が少なくなります。




☑玉切り（細断された丸太の素材のこと）直後だと木口が湿っている方が割りやすく乾くと割りにくくなってゆきます。

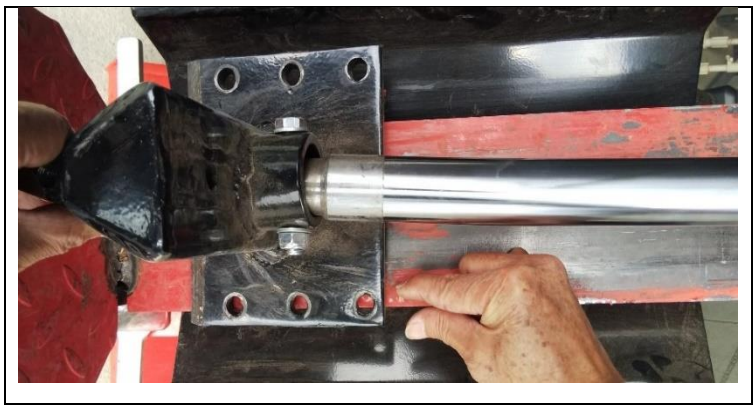
☑節がある場合は、ウエッジ（刃）に節があたらないように玉（丸太）を置く位置をずらします。

☑薪割り機は安定した硬い地面、もしくは下に鉄板などを敷いた水平な場所に設置し、タイヤに車止めをかけるなどして、前後に移動しないようにセットしてください。

☑不安定な場所や軟らかい地面で作業を行うと、台座や横フレームに必要以上の負荷がかかり、機械が破損することがあります。

✅堅い丸太(薪)を割るときは、木口が直角になっているものを割ります。斜めの木口の薪は割らないでください。ウェッジが反れたり、丸太(薪)が飛び出すことがあり大変危険です。また、斜めに力が加わることにより、ビームが曲がったり、ウェッジにつながった油圧シリンダーがまっすぐに伸びず、変形し、油圧機構に重大なダメージを与えることがあります。この場合、保証外となります。
特に、硬い薪を割る時は、刃先が木口に均等に当たるように置きます。

## ウェッジに対する斜めのストレスによる油圧シリンダー曲がりの事例



✅木は乾燥する前に割る
木は、切り出された直後から水分が抜けて乾燥してゆきます。乾燥が行き届いているほど硬度が上がりますが、逆に生木は繊維質が強いので、刃にまとわりつくような粘りがあります。このことから、乾燥をさせてから割る方が効率的ですが、材木の種類により異なりますので、専門(木材専門業者・薪ストーブ店など)の方にヒアリングすると良いでしょう。

✅薪ストーブに最適な樹種
広葉樹の中でも堅木のコナラ・クヌギ・ニレ・カシ・リンゴ・カバ・サクラ・ケヤキなどが適しています。広葉樹は堅くて火持ちがよく、薪にした時に煤(すす)の出が少ないです。
針葉樹の場合は、軟木のスギ・ヒノキなどが良いとされます。アカマツは非常にヤニが多いため、薪には適しません。

薪の水分量計

✅薪割と乾燥の目的は？
薪は割ることで乾燥しやすくなり、火付き・火持ちがよくなります。乾燥していない薪は、火力が上がりません。それは薪に残っている水分が蒸発してから薪が燃えるためで、まず蒸発に熱エネルギーが奪われ、その分の熱は暖房に利用できないからです。
立ち木の含水率は 50%以上で、薪ストーブに使う薪の最適な水分量は15%～20%前後です。専用の機器で水分量を測ることをお奨めいたします。

# ⚠ メンテナンスと保管

メンテナンス作業を行う前に、薪割り機をメンテナンス可能な状態に切り替えてください。
具体的には、
1.) エンジンを停止させる。
2.) コントロールバルブのハンドルを前後に動かし、油圧を解放してください。
メンテナンス作業終了後は、すべての機器の状態が始動時の初期状態に戻っている
ことを確認してください。 ➡ 後述の「残留油圧エネルギー」をご参照

**エンジンのメンテナンスについては、「エンジンメンテナンス」をご参照ください。**

| 部品名 | メンテナンスの頻度 | 方法 |
|---|---|---|
| ホース | 毎回 | ホースの裂け目やキズ、そして漏れがないか点検し、エンジンを始動する前に、損傷したホースを交換する。 |
| 油圧装置 | 毎回 | 亀裂や漏れがないか点検し、エンジンを始動する前にすべての損傷した器具を交換する |
| ボルトとナットを | 毎回 | ボルトの緩みがないか確認する |
| 本体支柱（台座） | 毎回 | 薪割り本体支柱（台座）の表面にオイルを塗る |
| 可動部 | 毎回 | 薪の破片を取り除く |

## ⚠ 注意！！残留油圧エネルギー

薪割り機のメンテナンスまたは修理を行う前に、加圧された作動油から残留油圧エネルギーを放出する必要があります。エンジンが作動していなくても、作動油が高圧のままの状態で残っています。圧力エネルギーを放出する際には、傷害事故等を避けるために、目に入ったり、皮膚に当たらないように十分、注意を払ってください。
残留油圧エネルギーを放出するには:

1. エンジンを切ってください。
2. コントロールバルブを前後に動かし、これを 4 回以上繰り返します。
3. コントロールバルブを前後に動かし、各々3 秒間保持します。

# 燃料及びエンジンオイルについて

## 燃 料

・自動車用無鉛ガソリンを使用して下さい。（有鉛ガソリンは使用しないで下さい）
・一度購入したガソリンは、30 日以内に御使用下さい。古いガソリンは使用しないで下さい。粘着物質に変質し、燃料系統を詰まらせ、故障の原因になります。
・ガソリンにアルコールなどは, 混ぜないで下さい。
・燃料タンクに注入する時は、溢れさせないようにして下さい。（上部に数センチ空間を開けて下さい）燃料が膨張し、タンクから溢れるのを防ぐためです。

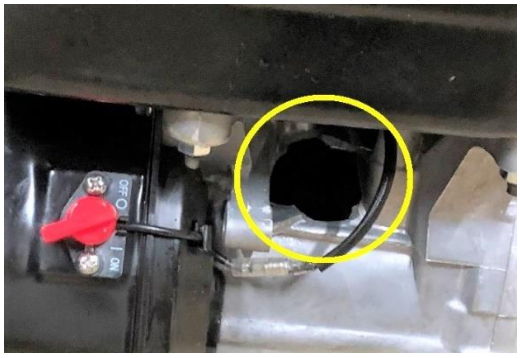
● **注意**

・ガソリンは、火気により引火・爆発の危険があります。火気には充分注意をして、取扱い願います。

## エンジンオイル

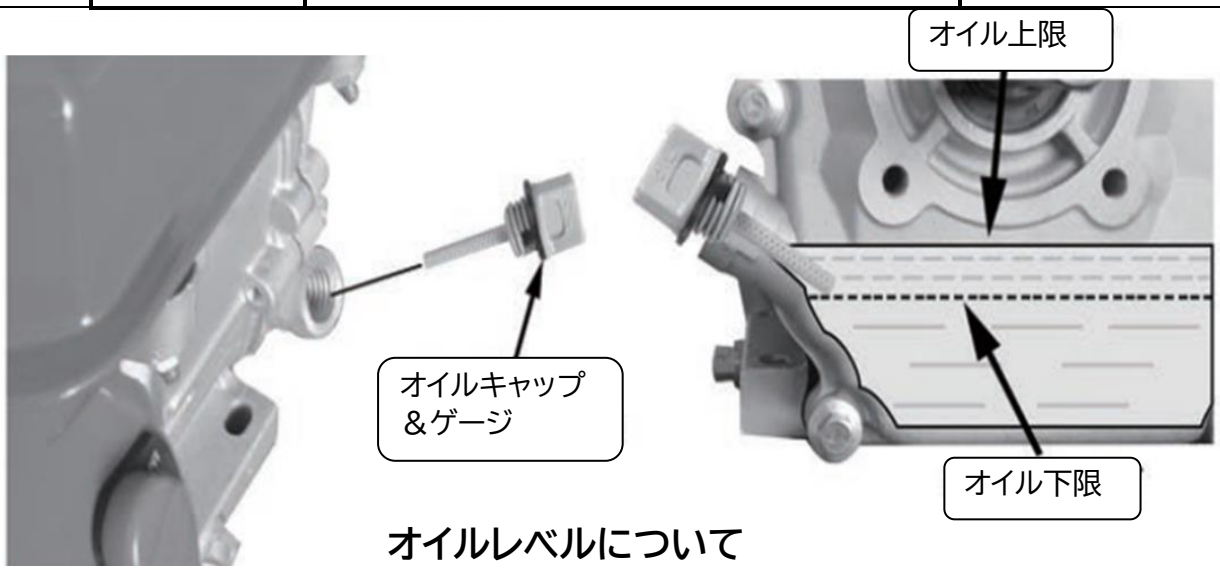
● 出荷時にはエンジンオイルは未封入です。エンジンの始動前には、必ず下記の要領でオイルの点検を行って下さい。エンジンオイル未封入だと、エンジンがかかりません。

**オイル未封入で運転し、クランクが固着し、コンロッドが折れ、クランクケースを突き破った「エンジン焼き付きの事例」**



①オイル注入時及び点検時は、エンジンを水平に置く。
②油量は、オイルゲージをねじ込まずに点検する。（ねじ込み部分を想定した油量を把握します））
③オイルゲージのオイル上限レベルまでオイルを注入する。
　エンジン各部に行き渡らすため、最初の注入は少し多めで構いません。
④エンジン始動前には、オイルゲージをしっかり締め付ける。
　・エンジンオイルは下表をご参照下さい。SAE 10W-30 が標準です。
　・オイルにガソリンは絶対に混ぜないで下さい。2 サイクルエンジン用は、使用できません。
　・マルチグレードオイルの使用の場合は、オイルの消費量が増えますので、通常より油量の点検を頻繁に行って下さい。

| | |
|---|---|
| オイルの種類 | 4 サイクル用エンジンオイル（10W-30） |
| 容　量 | 0.6L |
| 交換時期 | 初回 25 時間 / それ以降は 1 年または 50 時間毎 |




**オイルレベルについて**

# エンジン始動前の点検

**●エンジン運転前には必ず点検して下さい。**

① 燃料の点検

・ガソリンは入っていますか？

・古くなったガソリンを使っていませんか？

・ P.21の「燃料及びエンジンオイルについて」の項目に従い、規定に沿った燃料を補給して下さい。

・燃料タンクキャップは確実に締めて下さい。

**●注意**・燃料補給時は、火気には充分気をつけて下さい。火災・爆発の原因になります。

② エアクリーナの点検（特に、メンテナンス）時

・エアクリーナエレメントが汚れてはいませんか？埃の他に、エンジンオイルがエレメントに付着している場合があります。

③ エンジンオイルの点検

・エンジンオイルは規定量入っていますか？（本機のオイル量は、0.6L です）
　または、（特にメンテナンス時に）汚れてはいませんか？

・オイルが少なかったり、汚れていたり、指定時間以上使用している場合は、新しいエンジンオイルに交換して下さい。

④ 各部締め付けネジの点検

・各部のネジは締まっていますか？必ず、点検して下さい。

⑤ 各部の清掃・点検（メンテナンス時も含め）

・マフラーやエンジンの冷却フィン周辺に、泥、薪チップ、草や葉及び可燃物など等が付着していませんか？

・リコイルスターターの空気取り入れ口の周りに草や葉及び可燃物等が付着していませんか？ゴミ等が付着している場合は、エンジンの空冷性能が低下しますので、必ず取り去ってから運転して下さい。

⑥ 燃料もれ・油もれの点検

・燃料もれや油もれはありませんか？異常のあった場合は整備を行ったのち、ご使用下さい。

## ● 始業点検一覧表

| | |
|---|---|
| 1 | 前回使用時の異常個所 |
| 2 | オイル各種・燃料漏れの点検 |
| 3 | 燃料の点検、補給 |
| 4 | エンジオイルの点検 |
| 5 | 油圧オイルの点検・補給 |
| 6 | 操作ラベル、警告ラベルの貼付状態の点検 |
| 7 | ボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみなどの点検 |
| 8 | ウェッジ、台座部分のゆがみ、破損の点検 |

# 定期的なメンテナンス手順

| 点検項目 | 次の運転時間毎に点検・整備をする（h） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 25 | 50 | 100 | 200 | 300 | 500 | その他 |
| エンジンオイルの交換 | ◎ | ○ | | | | | |
| 燃料フィルターの洗浄及び水抜き | | ◎ | ○ | | | | |
| エアクリーナーの清掃・点検 | | ○ | | | | | |
| 点火プラグの清掃 | | | ○ | | | | |
| 点火プラグのすき間の点検・調整 | | | | ○ | | | |
| 気化器の清掃 | | | | ○ | | | |
| 燃料タンクの清掃 | | | | ○ | | | |
| フューエルパイプの交換 | | | | | | | |
| コントロールレバーの操作具合の点検 | | ○ | | | | | |
| 可動部へのグリス、オイルの補給 | | ○ | | | | | |
| ボルト、ナット、ピン類の欠落、ゆるみなどの点検 | | ○ | | | | | |
| 操作ラベル、警告ラベルの貼付状態の点検 | | | ○ | | | | |
| ストッパー・ロックの取り付け状態の点検 | | | ○ | | | | |

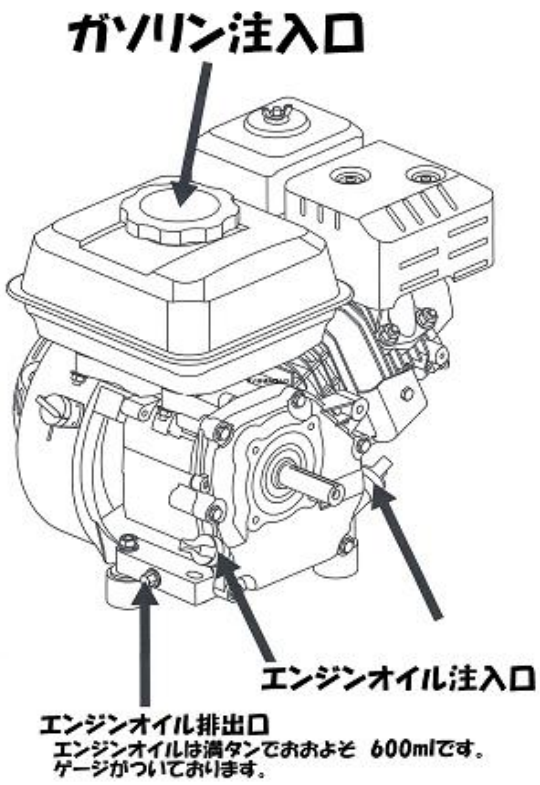
# よくある質問と回答

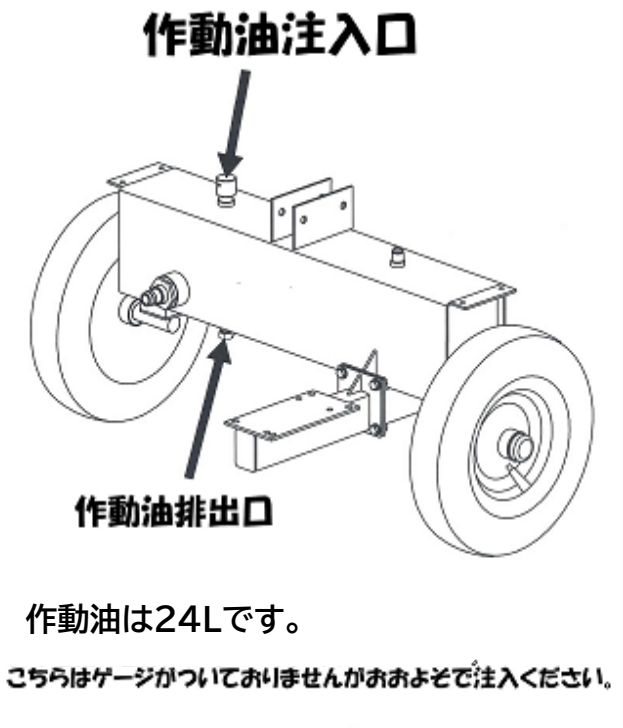
Q. エンジンのチョークレバーは戻す必要はありますか？
A. チョークレバーをセットしたままだと、混合気が濃すぎて、出力が上がらず、且つエンジン内に煤が蓄積する原因となるので、始動後は必ず戻してください。

Q.節・こぶ・うねりなどの部分でも割れますか？
A.節、こぶ・うねりなどでは割れない場合があります。その場合はずらしたり、節やこぶを避けてください。
無理な荷重を掛けて、破損したときは保証外となります。

Q.エンジンオイルと作業油について。
A.エンジンオイル→0.6L 必要になります。また、4サイクルオイルになります。
ホームセンター等で売られております。
※2サイクル用オイルは使用できません。

作動油→ガソリンスタンドやホームセンターで売られております。
番号は、32番、もしくは46番をお使いください。
→巻末をご参照ください。
こちらは24L 必要になります。



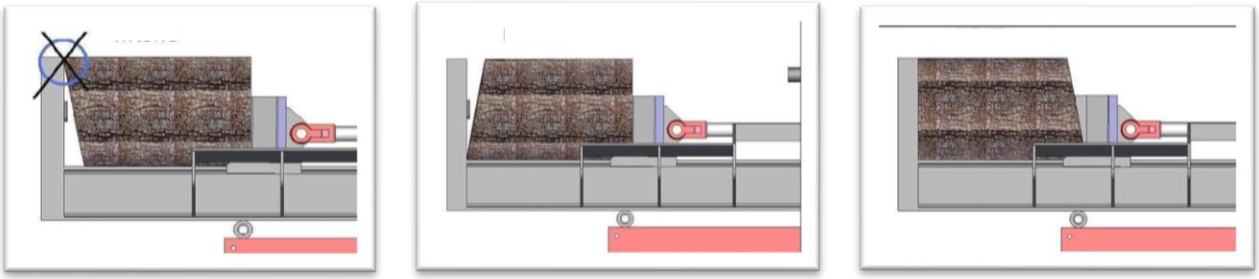




※輸送時の事故を防ぐため、お届けする薪割機には、ガソリンと作動油は入れてありません。

Q. タイヤの空気圧と牽引速度はどのくらいですか？
A. 1.5kgf/cm2 になります。移動(牽引)速度は、20Km/h以内でお願いします。
速度が速すぎると、右折・左折時やカーブでの急ブレーキで、カプラー部で薪割り機が折れ曲がり、車両に衝突することがありますので、慎重な運転が必要です。

Q.平らでない(木口が斜めの)薪の割り方を教えて下さい。
A.下図を参照してください。

×不可　　△可　　〇良



※木口が薪の長辺に対し、直角になっていないと機器の損傷につながることがあります。

# エンジンメンテナンスについて

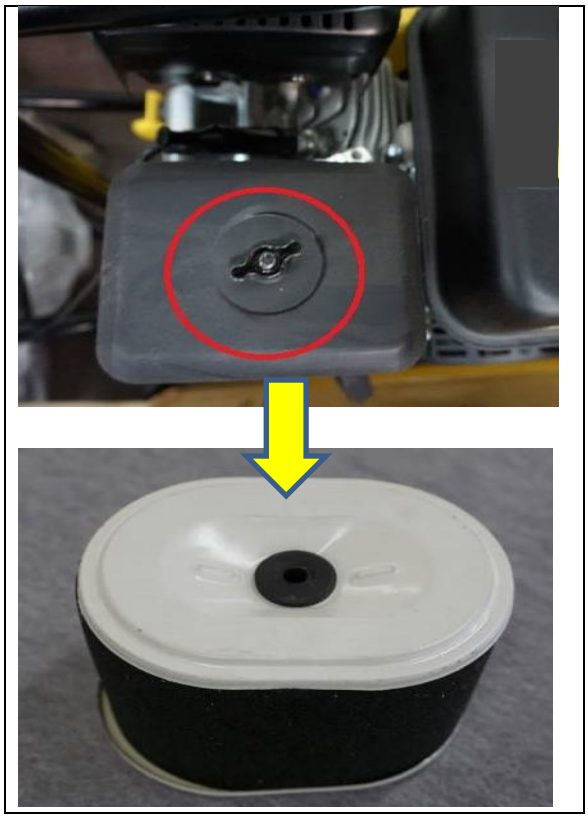
**(1)エクリーナーの点検**

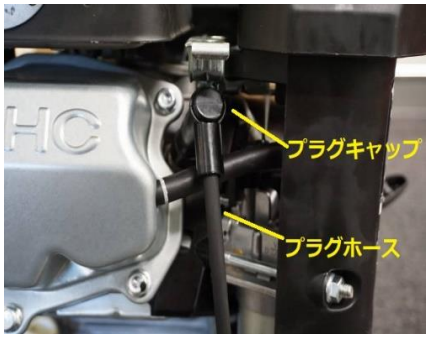
**エアクリーナーは 50 時間毎、もしくは砂ぼこりの多い場所でのご使用の後は清掃、点検を行ってください。**

❶エアクリーナーカバーの上の蝶ネジを反時計方向に回し、カバーを外します。

❷中のエアクリーナーを取り外し内側からエアーなどで吹いてゴミを取り除きます。外側のスポンジ部分は中性洗剤で洗い、よく乾かし取付けてください。

汚れがひどい時や、スポンジが劣化している時は新しいものに交換をしてください。






**プラグの場所**

**(2)点火プラグの点検**

点火プラグの点検は、エンジンが高温になっているため、手や肌が触れると火傷を負う危険性があるので、安全な温度に下がった状態で行ってください。
プラグホース(キャップ)を外し、プラグの清掃を行ってください。プラグの汚れがひどい場合は新しいものと交換してください。

❶エンジンのエアーフィルターとマフラーの間にある**プラグキャップを引きます。**
(上の図ご参照)
**※プラグホースを強く引くと、切れることがありますのでご注意ください。**

❷スパークプラグをプラグレンチ等で外しプラグの先端の汚れを取り除き、間隔が 0.7～ 0.8mm 前後になるようにしてください。

| | |
|---|---|
| プラグ型式 | ROBIN:NGK／BR6HS |
| | LONCIN:NGK／BPR7ES |
| プラグレンチサイズ | 21mm |
| 清掃時期 | 1 年または 100 時間毎 |

※エンジンオイルが多めのときは、プラグにカーボンスラッジが蓄積することがありますので、点検期間は前ページ表より短くなります。

**(3)エンジンオイルの交換**

エンジンオイルの交換は、所定の時間内でも、汚れ(黒ずんできたら)が目立ってきたら継ぎ足しではなく、交換の方がエンジンの寿命を長くします。
エンジンオイルを抜くときは、オイル・ドレインのネジを緩め、オイルパンを下に敷き、排出します。(規定のオイル量は、0. 6L です)

**オイルドレインネジ**

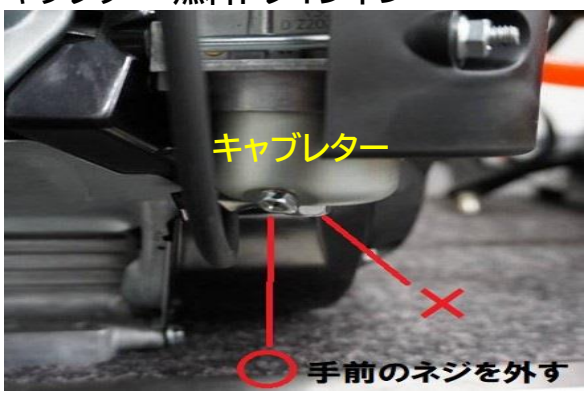
**(4)中長期(3 か月～6 か月以上)保管のときの燃料対応**

中長期間使用しないときは、ガソリンを抜くか、ガソリンが空になるまで、エンジンの運転を続け、タンク、キャブレター内にガソリンが残らないようにお願いします。特に、ガソリンはキャブレター内の燃料の動きがない閉塞回路では3～6 ヶ月程度で粘着物質に変質し、通路を塞ぎます。そうなる前に燃料劣化防止剤(商品名:スタビルなど)を封入しておいてください。

**A.ガソリンを抜いて保管するとき**

燃料タンク内のガソリンはポンプを使って排出します。次に、燃料コックを開け、キャブレター下部(おわん型の部品)に、斜め手前に向けた燃料排出ネジがあります。
それを緩め、外し、ガソリンポッド(入れ物)にガソリンを受けます。
奥の下側のネジを外すと、キャブレターの部品が外れてしまいますので、このネジは外さないでください。

**キャブレター・燃料ドレインネジ**




**B.エンジンを動かし、燃料を消費する方法**

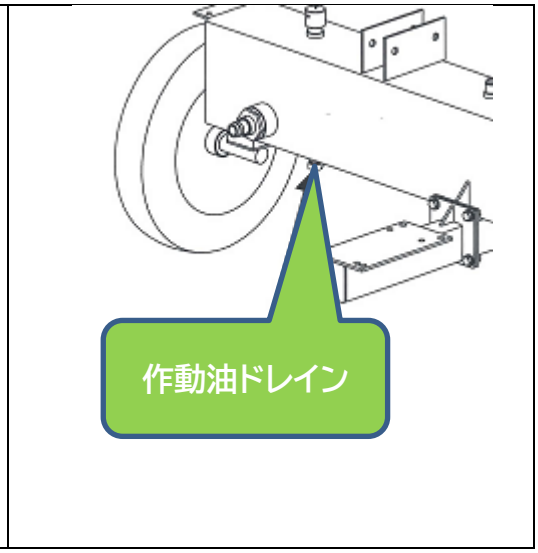
燃料タンク内のガソリンをポンプで排出させ、燃料コックを開き、エンジンを始動します。そのまま、エンジンが停止するまで待ちます。この方法は、燃料回路内のガソリンを完全に消費するので、有効な方法です。

**C.燃料変質防止剤を使用する**

燃料劣化防止剤(商品名:スタビル)は
ガソリンを粘着物質に変質させる期間
を延ばし、保存期間を長くすることが
できます。添加する量は、それぞれの
変質防止剤の説明書に従ってください。

スタビルの製品事例

# 作動油の補充と交換




運転時には作動油(24L)の確認をお願いいたします。量を測るゲージが付いておりませんので、挿入口から覗いて、油面が見えるくらいが満タンです。また、交換時の排出口は、底部の黒いナットを緩めると排出が可能です。

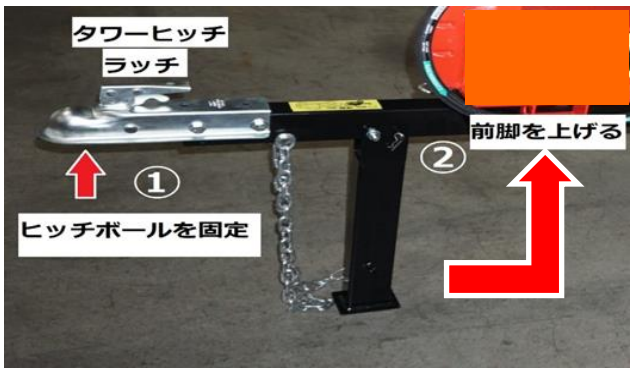
●オイルの交換時期は、オイルが黒ずんでくると、油圧回路の抵抗が増し、出力が低下しますので、汚れたら注ぎ足しするよりも**交換**が効果的です。

## 牽引移動の方法

①タワーヒッチのラッチを引上げ、車両側のヒッチボールにタワーヒッチのカプラーをかぶせる。

②前脚のピンを抜き、引き上げ、固定をする。(後脚も引き上げ、ピンで固定する)

ご注意)牽引速度は 20Km/h以内で移動してください。



# トラブルシューティング（故障と思ったら）

## ●エンジンがかからない（または、不安定）

| 症状 | 原因 | 対処方法 |
|---|---|---|
| 点火プラグに火花が出ていない | 始動スイッチの不良 | スイッチ交換 |
| | 点火プラグ不良 | プラグ交換 |
| | 点火プラグキャップ接続不良 | 点火プラグをしっかりはめる |
| | エンジンオイルが入っていない/オイル量が少ない | オイルを規定量入れる |
| | イグニッションコイルの不良 | イグニッションコイルの交換 |
| キャブレターに燃料が来ていない | 燃料が入っていない/燃料コックが閉じている | 燃料を入れる/コックを開ける |
| | 燃料ホースの詰まり、漏れ | ホース清掃、交換 |
| | 燃料タンク錆びまたは、異物混入による詰まり | 交換、タンク清掃 |
| キャブレターに燃料は来ているが、エンジン内に燃料が来ていない | キャブレター詰まり（ニードル・バルブ固着） | キャブレター分解掃除 |
| エンジン回転が不安定または異常燃料する | オイルの入れ過ぎ | 規定オイル量に戻す |
| | オイルにガソリンまたは、不純物が混ざっている | オイル交換 |

## ●シリンダーが動かない、または伸縮スピードが遅い

| 原因 | 対処方法 |
|---|---|
| ギアポンプの損傷 | ギアポンプ交換 |
| 油圧シリンダーの損傷 | 油圧シリンダー交換 |
| エンジン回転速度が遅い | エンジンのスロットルを開ける |
| 油圧オイル不足 | 油圧オイル補充 |
| 油圧オイルの汚れ・変質 | 油圧オイルを交換する |
| 油圧コントロールバルブの破損 | 油圧コントロールバルブ交換 |
| シリンダーの動きが鈍い | P.15の油圧コントロールバルブの油量調整ネジを締める |
| シリンダー内部の損傷 | 油圧シリンダー交換 |

## 推奨オイル

ご注意：油圧用オイル（作動油）は、油圧機構に使われる専用の特性を持ったオイルです。
車のブレーキ機構などにも使用されますが、エンジンオイル、ミッションオイルなどの摺動部（金属同士などがこすれる部分）の摩擦を軽減する「潤滑油」とは全く性質の異なる役割を持った製品のため、誤って使用することがないようにしてください。

＜推奨オイル＞
粘度グレードが、ISO VG32番、VG46番のオイルをご利用ください。

| 製造元 | 種類 | 商品名・型番 | |
|---|---|---|---|
| | | 粘度：ISO VG 32 | 粘度：ISO VG 46 |
| 昭和シェル石油 | 耐磨耗性 | シェル テラス S2 M 32 | シェル テラス S2 M 46 |
| ENEOS | 一般 | FBK オイル RO32 | FBK オイル RO46 |
| コスモ石油 | 一般 | コスモオルパス 32 | コスモオルパス 46 |
| | 耐磨耗性 | コスモハイドロ AW32 | コスモハイドロ AW46 |
| 出光石油 | 一般 | ダフニー メカニックオイル 32 | ダフニー メカニックオイル 46 |
| | 耐磨耗性 | ダフニースーパーハイドロ 32A | ダフニースーパーハイドロ 46A |
| モービル石油 | 一般 | DTE オイル ライト | DTE オイル メディアム |
| | 耐磨耗性 | モービル DTE オイル 24 | モービル DTE オイル 25 |
| エッソ石油 | 一般 | テレッソ 32 | テレッソ 46 |
| | 耐磨耗性 | ヌトー H32 | ヌトー H46 |

※オイルはお近くのホームセンター、ガソリンスタンドなどでお買い求めください。
概して、32番はオールシーズンタイプ／46番は粘性があるので、春夏秋用です。

## ◆薪に適した樹種

**針葉樹**(スギ・ヒノキ・アカマツ・カラマツ等)は着火しやすい反面、火持ちが悪く、多くのヤニ(タール)が含まれているため、化学物質が排煙(煙突)系に蓄積し、こまめに煙突掃除をしなければ燃焼効果が落ちます。これらは着火性が良いので、最初の焚き付け用として重宝されます。
**広葉樹**(ナラ・クヌギ・サクラ・アカシア・クリ・ブナ・カシ・ケヤキ等)は着火はしづらい反面、火持ちがとても良いので推奨されます。特にナラ・クヌギは薪を継ぎ足す量が少なくて済みます。

| 材質 | 種類 | 火付き | 火持ち | 煙 | おき火 | 薪割り機26tの適合性 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 硬い木 | カ　シ | ○ | ◎ | 少ない | 残る | 直径40㎝以下が目安となります。 |
| | ク　リ | ○ | ◎ | | | 〃　〃 |
| | ナ　ラ | ○ | ◎ | | | 〃　〃 |
| | ケヤキ | ○ | ◎ | | | 〃　〃 |
| | クヌギ | ○ | ◎ | | | 〃　〃 |
| 柔らかい木 | マ　ツ | ◎ | ○ | 多い | あまり残らない | 直径45㎝以下が目安となります。 |
| | ス　ギ | ◎ | ○ | | | 〃　〃 |
| | ヒノキ | ○ | ◎ | | | 〃　〃 |
| | シラカバ | ◎ | ○ | | | 〃　〃 |
| | カラマツ | ○ | ○ | | | 〃　〃 |

※上記の薪の適合直径は乾燥させた薪で、生木や節目があるものは、適合直径はさらに小さくなります。但し、すべての種類が乾燥させた方が、割りやすいとは限りません。また、薪の直径が大きいときは、そぎ割りや上下を反転させるなど、複数回で薪割り処理を行います。

**本薪割り機の適合直径**

広葉樹:直径40cmくらいまで
針葉樹:直径45cmくらいまで

# 保証書

1. この度は、弊社製品をお求めいただきありがとうございます。正常な使用状況で保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご提示の上、弊社へご連絡ください。
   ご購入日から半年間：本書の注意事項に従った正常な使用状況において、故障が発生した場合、修理に必要な部品を無償にてご提供させていただきます。

   保証期間中でも、下記のような場合には、有料での部品提供となる場合があります。
   ① 使用上の誤りあるいはメンテナンス等の義務を怠ったために発生した故障及び損傷
   ② お客様ご自身での改造による故障、損傷、または本説明書で明記した太さ以上の材料を分割し、損傷させたとき。
   ③ お買い上げ後の移動や落下による故障、損傷
   ④ ご使用後のキズ、変色、腐食、および保管上の不備による故障、損傷
   ⑤ 消耗が起因とする故障、損傷および消耗品の交換
   ⑥ 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、風水害、その他天災地変、あるいは外部要因による故障、損傷
2. 本書は日本国内においてのみ有効です。
3. 保証の要否は、誠に勝手ながら弊社において判断させていただきます。
4. 中古品、インターネットオークションを含む個人間の売買や譲渡によって入手された製品は保証対象外とさせていただきます。
5. 保証期間中でも修理・修復に伴う工賃のお支払は出来かねます。予めご了承ください。
6. 修理依頼にかかる送料は、発送時はご依頼主様の元払い、返却時は弊社の元払いとさせていただきます。修理預かり期間中の代替品の出荷や貸し出し、および故障した製品の原因追究や解析等の調査はいたしかねますのでご了承ください。

| | |
|---|---|
| 品名 | 薪割り機26t（DL23H） |
| 保証期間 | 購入日より半年間 |
| お客様ご連絡先 | お名前<br>ご住所<br>お電話番号 |
| コールセンター電話番号 | 0120-070-285　ネットショップ総研・ドリームリンク事業部<br>メールアドレス　info@dreamlink-trade.com |